



「環境文化都市」を目指して



＜アジェンダ＞

- ◆ 飯田市の概要
- ◆ 環境文化都市
- ◆ 脱炭素先行地域事業
- ◆ うごくる。

飯田市 ゼロカーボンシティ推進課

<アジェンダ>

◆ 飯田市の概要

◆ 環境文化都市

◆ 脱炭素先行地域事業

◆ うごくる。



飯田市の概要

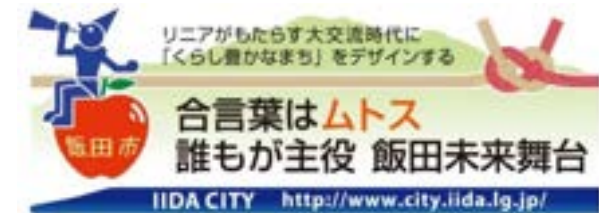
面積…………… 658.66km²
人口(2024.3月)…………… 95,400人
世帯数(2024.3月) …… 40,257世帯
標高(市役所) …………… 499.2m
日照時間(2023年) …… 2367.3時間
森林面積の割合…………… 84.4%



「結い」と「ムトス」による地域づくり

◆飯田の語源は「結い田」とも言われる。「結い」とは、人々がつながりあい、互いに助け合って、一つのことを成し遂げる仕組み

◆飯田の地域づくりは、市民一人ひとりのムトスの心と結い精神に基づく住民自治の活動が原動力



ムトスとは？

「…しようとする」 行動への意志や意欲を表す、飯田の地域づくりの合言葉。

(1982年3月策定の「ムトス飯田 10万都市構想」で初めて用いた)

飯田市自治基本条例 (議会提案により2007年4月1日制定)

飯田市が「愛すべき・誇りにできるまち」であり続けるため、自治の基本原則と地域づくりでの市民、市議会、行政の役割を明らかにし、市民主体の地域づくりを三者が協働して推進することを目的に制定された条例

飯田市の地域自治の特徴



① 住民の自治活動が活発であり、行政もそれを支援している

- ◆ 昭和の大合併以降も、旧村の地域をコミュニティの基礎的単位として継承し、暮らしに密着した住民主体の地域づくり活動が活発に行われてきている。
- ◆ 飯田市は、住民自治が地域経営の基盤であり、住民による自治活動が地域づくりの原動力であるにとらえ、旧村単位の20地区に自治振興センターを設置して、住民主体の自治活動を支援している。

② 公民館が『住民自治の学校』として重要な機能を果たしている

- ◆ 公民館活動が、住民同士の関係性を強くするとともに、地域づくりの主体者としての住民意識を高める役割を果たしている。
- ◆ 公民館委員は、地域の若手住民が主役であり、公民館活動を通じて、地域を知り、他者との関係を築いている。
公民館活動で地域課題をとらえた事業の企画実践経験を積んだ住民の中から、自治活動組織（まちづくり委員会）の役職を担う地域リーダーが発掘育成されている。
(公民館委員：60歳以下85% ⇒ まちづくり委員会役職員：60歳代以上)

<アジェンダ>

- ◆ 飯田市の概要
- ◆ **環境文化都市**
- ◆ 脱炭素先行地域事業
- ◆ うごくる。



飯田市の基本構想(目指すべき方向性)の変遷



1966(S41)年度～1980(S55)年度

第1次基本構想基本計画

田園工業都市

1978(S53)年度～1987(S62)年度

第2次基本構想基本計画

緑と光にあふれた豊かな住みよい田園都市

1988(S63)年度～1997(H9)年度

第3次基本構想基本計画

緑とロマンにあふれ 活力ある
りんご並木のまち いいだ

1996(H8)年度～2005(H17)年度

第4次基本構想基本計画

**人も自然も美しく、輝くまち飯田
ー環境文化都市ー**

2007(H19)年度～2016(H28)年度

第5次基本構想基本計画

住み続けたいまち 住んでみたいまち 飯田
人も自然も輝く 文化経済自立都市

基本構想策定に併せ **「環境文化都市宣言」** を実施

2017(H29)年度～2028(R10)年度

いいだ未来デザイン2028

リニアがもたらす大交流時代に「暮らし豊かなまち」をデザインする
ー合言葉はムトス 誰もが主役 飯田未来舞台ー

＜計画期間：平成29(2017)年度～平成40(2028)年度＞

環境文化都市とは？



- × 環境も文化も
- **環境への取り組みが文化になるまで**

飯田市環境文化都市宣言

平成19年 3月

私たち飯田市民は、地球環境問題が人類共通の課題であることに着目し、人と自然のかかわりを見つめ直して、日々の生活から産業活動まですべての営みが自然と調和するまちづくりに、先駆的に取り組んできました。

自然環境や生活環境などを取り巻く状況が厳しさの度を増している今日、「持続可能性」と「循環」を基本にして自分たちのライフスタイルから社会の有り様に至るまでをあらためて見直し、**「環境に配慮」する日常の活動を「環境を優先」する段階へと発展**させながら、新たな価値観や文化の創造へと高めていく必要があります。

私たちは、かけがえのない地球にある生態系の中で自然と共生する地球市民の一員としての原点に立ち返り、先人から受け継いだ美しい自然環境と多様で豊かな文化を活かしながら、**市民、事業者、行政など多様な主体の積極的な参加と行動とによって人も自然も輝く個性ある飯田市を築く**ことを誓い、ここに「環境文化都市」を宣言します。

環境文化都市いいだ これまでの歩み



★ 2022(令和4)年 脱炭素先行地域選定

★ 2022(令和4)年 うごくる。(環境文化都市づくりプラットフォーム) 設立

★ 2021(令和3)年 2050年いいだゼロカーボンシティ宣言

2014(平成26)年
ポイ捨て条例制定
南アルプス ユネスコエコパーク登録

2013(平成25)年 地域環境権条例制定
地域主導の再エネ事業創出

2011(平成23)年 ラウンドアバウトの導入

2010(平成22)年
環境首都コンテスト「明日の環境首都賞」受賞

2009(平成21)年 レジ袋有料化
LED防犯灯の開発・設置

2009(平成21)年 環境モデル都市選定

★ 2007(平成19)年 環境文化都市宣言

2004(平成16)年 平成のまほろば事業 市民共同発電開始

2002(平成14)年 公共施設へのペレットストーブ設置開始

1999(平成11)年 ごみ処理費用負担制度導入

1997(平成9)年 太陽光発電補助開始

地域ぐるみでISOへ挑戦しよう研究会(現：地域ぐるみ環境ISO研究会)発足

★ 1996(平成8)年 目指す都市像 環境文化都市

環境基本条例制定 21'いいだ環境プラン策定

21'いいだ環境プラン みんなで目指そう「6つのゴール」



ゴール

5 気候変動への対策に取り組もう

ターゲット 5-1

省エネルギーの加速的推進

ターゲット 5-2

脱炭素な生活様式への転換

ターゲット 5-3

地域産再生可能エネルギーの創出

ターゲット 5-4

地域産再生可能エネルギーの活用

ターゲット 5-5

森林整備による吸収源の確保

ターゲット 5-6

気候変動への主体的適応



21'いいだ環境プラン みんなで目指そう「6つのゴール」

ゴール

6 環境問題を知り、学び、実践に移そう

ターゲット 6-1

生涯にわたる環境学習の推進

ターゲット 6-2

幼少期からの環境学習の取組

ターゲット 6-3

環境学習人材の育成

ターゲット 6-4

環境人材のネットワークづくり

ターゲット 6-5

学習から実践へ

ターゲット 6-6

情報の発信



学校での環境学習



子どもエコ講座

21'いいだ環境プラン 取組事例の提案

ZERO
Carbon City
1994 2050

…で、結局
何すればいいの？

場面別 こんなことしてみませんか事例集

お家ですぐとき

- ☐ 誰もいない部屋の明かりはこまめに消す
- ☐ 「ごみ出しガイドブック」やごみ分別アプリ「さんあ〜る」を見て、ごみと資源の分別をきちんとする。



家電製品を使うとき

- ☐ 冷蔵庫の中を整理し、物を詰め込み過ぎない
- ☐ エアコンのフィルター掃除など、製品の手入れを忘れない



外出するとき

- ☐ 電車やバスなど公共交通機関を積極的に利用する



家を建てる時

- ☐ 新築やリフォームの際はZEHなど、省エネ性能の高い家にする



買い物や外食のとき

- ☐ 必要なものを必要な量だけ買ったり、注文する



コミュニティのなかで

- ☐ 環境学習会や観察会に参加する



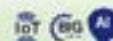
飯田市地球温暖化対策実行計画

(第3次環境モデル都市行動計画)



ゼロカーボンシティ飯田への挑戦

世の中の動き、市民・事業者の取組



エネルギー転換部門 CO2排出量大幅削減

電源構成における化石燃料依存度が大幅に下がり、CO2排出の半減近くを占めていたエネルギー転換部門のCO2削減が飛躍的に進む。

化石燃料から
再生可能エネルギーへ。



次世代自動車時代の到来



電気自動車 (EV)、燃料電池車 (FCV) を中心とした次世代自動車が一般的に普及する時代へ。

運輸部門のCO2排出が飛躍的に進む。

地球環境への配慮が当たり前のまち



<へらす> 21%の環境プラン (ゴール5 ターゲット1に対応)

- エネルギーの効率的な利用促進のため、省エネ機器の普及啓発
- 省エネルギー診断の普及
- 事業所向け省エネセミナーによる意識啓発
- 多様な主体との協働による地域全体での環境改善活動の普及推進
- 地域版環境マネジメントシステムなどで培ってきたネットワークを活かした省エネの取組の深化、拡大



<学び・実践> 21%の環境プラン (ゴール6に対応)

- 生涯にわたる環境学習
- 幼少期からの環境学習
- 環境人材育成と人材のネットワークづくり
- 学習から実践への取組<プラットフォーム>構築推進
- 環境学習の情報発信 (WEB、SNS等)



<吸収する> 21%の環境プラン (ゴール5 ターゲット3に対応)

- 計画的な森林整備による吸収源の確保
- 里山保全



<かえる> 21%の環境プラン (ゴール5 ターゲット2に対応)

- エシカル消費の実践に関する普及啓発
- 次世代自動車への乗換促進
- 次世代自動車普及に向けたインフラ整備の在り方検討
- 公共交通機関利用の推進
- 自転車利用の推進
- ウォーキングの推進
- エネルギーの見える化
- 創田版ZEH制度の構築



- デマンドコントロールの推進
- テレワーク、リモートワークの推進

<つくる> 21%の環境プラン (ゴール5 ターゲット3に対応)

再生可能エネルギー機器を導入し、自ら使うエネルギーを創出



- 太陽光発電の普及拡大
- 太陽熱利用の普及拡大
- 木質バイオマス利用の普及拡大
- 小水力発電の支援

<つかう> 21%の環境プラン (ゴール5 ターゲット4に対応)

「地域産」再生可能エネルギーの活用促進
グリッド内でのエネルギーの地域域間エネルギーマネジメント



- FIT切れ電源の有効活用
- 再生可能エネルギーの自家消費推進
- V2H導入など、蓄電池の有効活用
- E90全額地域導入に向けた研究
- 木質バイオマスエネルギーの流通体制構築
- 将来的な共生を見据えた都市部との交流

リニア駅周辺において
飯田版ZEHを
集約化した
モデルエリア
を構築

「地球温暖化対策実行計画 (第3次環境モデル都市行動計画)」の具体的取組

<アジェンダ>

- ◆ 飯田市の概要
- ◆ 環境文化都市
- ◆ **脱炭素先行地域事業**
- ◆ うごくる。



2050年いいだゼロカーボンシティ宣言



2050年までに飯田市の二酸化炭素排出量を実質ゼロにすることを目指し、それを実現するための市民生活、事業活動、行政施策などを、**市民、事業者、行政**などが協働して地域ぐるみで力強く進めていく。

飯田市議会、飯田商工会議所、飯田市の3者共同宣言



飯田市 脱炭素先行地域提案概要①

飯田市：既存配電システムを活用した地域マイクログリッドによる人をつなぎ地域をつなぐまちづくり

1. はじめに（提案地方公共団体の社会的・地理的特性等）

■ 社会的・地理的特性

- ・「飯田市市民憲章」には、「自然を大切に、美しい環境の飯田市をつくります」と謳われており、古くから環境改善活動を積極的に展開してきた。産業・都市・人づくりを柱に、「環境が文化になるまで」個性ある都市づくりを進めるため、恒久的に目指す都市像として「環境文化都市」を掲げている。
- ・地形は標高差2,700mを超える我が国最大級の谷地形であり、豊かな自然と優れた景観、四季の変化に富み、動植物の南北限という気候風土に恵まれている。

■ 温室効果ガス排出の実態

- ・最新年度である2019年度の本市の温室効果ガス全体の排出量は537,555千t-CO₂である。当市が基準年としている2005年度実績と比較すると、25.5%削減されている。

■ 地域課題

- ・災害に対するトラウマ
- ・人口減少による担い手不足とまちづくり委員会自治力低下
- ・若年層の人口流出



2-1. 脱炭素先行地域の概要（対象とする地域の位置・範囲、需要家数、民生部門の電力需要量等）

■ 対象地域の位置・範囲

- ・飯田市のうち川路地区全域及び飯田市立小中学校全校
- ・川路地区は、飯田市内の南に位置する温暖な地区であり、三遠南信自動車道天竜峡インター、J R飯田線が交わる交通の拠点で利便性が良い「長野県の南の玄関口」と言える地域である。
- ・当市の発展を考えたときに、再生可能エネルギーを可能な限り活用し、全国に誇れる地域づくりを行いながら地域の魅力を向上させることで地域の活力を生み出しつつ、さらなる経済の地域内循環を行うことで、心豊かな生活を送りながら脱炭素を達成する地方の新しい在り方を発信していく必要があり、まずは、川路地区でのそのモデルを構築し、横展開を図っていく。

■ エリア規模、需要家数

- ・6.28km²
- ・戸建住宅 616戸 民間施設 97施設 市有施設 17施設 小学校 19校 中学校 9校

■ 民生部門の電力需要量、再エネ供給量及び省エネによる削減効果量

- ・需要量 9,251,066kWh/年
- ・再エネ供給量 8,135,516kWh/年
- ・省エネによる削減効果量 1,115,550kWh/年



飯田市 脱炭素先行地域提案概要②

2-2. 脱炭素先行地域における取組（具体的な内容及び実施スケジュール）

○ 民生部門の電力消費に伴うCO2排出の実質ゼロの主な取組

1.川路地区に存する太陽光発電施設「メガソーラーいいだ」と新設する蓄電設備、既存配電系統を用いる地域マイクログリッドを中部電力株式会社と共同で構築し、脱炭素化と同時に災害レジリエンス機能の強化を図る。既存の配電網を活用することで、新たなインフラ投資を最小限とした地域マイクログリッドのモデルケースとして確立し、類似地域における横展開に資する取組とする。

2.上記地域マイクログリッドの取組を契機として、対象地区における平常時の電力使用に伴うCO2排出量を実質ゼロにするため、対象地区内のすべての建物に対し、太陽光発電設備及び蓄電池の設置による自家消費やP P Aサービスの利用を推進し、エリア内の脱炭素化を目指す。

地域P P Aコンソーシアムを構築し、設置を促しつつ設置費用の低減に向けた研究を行い、市内他地域への太陽光発電の普及を行う。

また、対象地区における再エネ活用の取組を市内小中学校にも展開することで、学校施設における電力使用の脱炭素化と具体性ある環境教育とを実現し、学校をハブとして各家庭での取組の啓発につなげる。

3.中部電力ミライズ株式会社のデマンドレスポンスサービス「NACHARGE」を活用し、エリア内の省エネに地域一丸となって取り組むとともに、貢献ポイントと地域通貨とを連携させることにより、地域内の経済循環を生み出し、地域活性化を図る。

○ 民生部門電力以外の温室効果ガス排出量削減等の主な取組

1. E V、V 2 H 充放電設備に係る補助制度と併せて「飯田市災害時協力登録車制度」を創設し、補助対象となった E V を災害時に避難施設で電力供給行える体制を構築し、脱炭素とレジリエンス向上を同時実現。

2.川路地区をはじめとした地域の環境への取組を題材とした環境教育を小中学校で実施。将来の脱炭素社会の担い手育成をしつつ、併せて地域学習を充実させ、地域としての担い手の育成も行い、地域課題である若年層の人口減少や地域の担い手不足の解消につなげる。

○ 実施スケジュール

	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和 10年度	令和 11年度	令和 12年度 (最終年度)
民生部門の電力消費に伴うCO2排出実質ゼロ	地域マイクログリッドの構築 計画・調査、設計、施工、設備の設置、運用・保守、モニタリング								
	蓄電設備の設置 計画・調査、設計、施工、設備の設置、運用・保守、モニタリング								
	地域P P Aサービスの導入 計画・調査、設計、施工、設備の設置、運用・保守、モニタリング								
	地域通貨の導入 計画・調査、設計、施工、設備の設置、運用・保守、モニタリング								
	地域マイクログリッドの構築 計画・調査、設計、施工、設備の設置、運用・保守、モニタリング								
	蓄電設備の設置 計画・調査、設計、施工、設備の設置、運用・保守、モニタリング								
	地域P P Aサービスの導入 計画・調査、設計、施工、設備の設置、運用・保守、モニタリング								
	地域通貨の導入 計画・調査、設計、施工、設備の設置、運用・保守、モニタリング								
	地域マイクログリッドの構築 計画・調査、設計、施工、設備の設置、運用・保守、モニタリング								
	蓄電設備の設置 計画・調査、設計、施工、設備の設置、運用・保守、モニタリング								
	地域P P Aサービスの導入 計画・調査、設計、施工、設備の設置、運用・保守、モニタリング								
	地域通貨の導入 計画・調査、設計、施工、設備の設置、運用・保守、モニタリング								
	地域マイクログリッドの構築 計画・調査、設計、施工、設備の設置、運用・保守、モニタリング								
	蓄電設備の設置 計画・調査、設計、施工、設備の設置、運用・保守、モニタリング								
	地域P P Aサービスの導入 計画・調査、設計、施工、設備の設置、運用・保守、モニタリング								
民生部門電力以外	EV、V2H充放電設備に係る補助制度の創設 計画・調査、設計、施工、設備の設置、運用・保守、モニタリング								
	災害時協力登録車制度の創設 計画・調査、設計、施工、設備の設置、運用・保守、モニタリング								
	EV、V2H充放電設備に係る補助制度の創設 計画・調査、設計、施工、設備の設置、運用・保守、モニタリング								
	災害時協力登録車制度の創設 計画・調査、設計、施工、設備の設置、運用・保守、モニタリング								
	EV、V2H充放電設備に係る補助制度の創設 計画・調査、設計、施工、設備の設置、運用・保守、モニタリング								
	災害時協力登録車制度の創設 計画・調査、設計、施工、設備の設置、運用・保守、モニタリング								
	EV、V2H充放電設備に係る補助制度の創設 計画・調査、設計、施工、設備の設置、運用・保守、モニタリング								
	災害時協力登録車制度の創設 計画・調査、設計、施工、設備の設置、運用・保守、モニタリング								
	EV、V2H充放電設備に係る補助制度の創設 計画・調査、設計、施工、設備の設置、運用・保守、モニタリング								
	災害時協力登録車制度の創設 計画・調査、設計、施工、設備の設置、運用・保守、モニタリング								
	EV、V2H充放電設備に係る補助制度の創設 計画・調査、設計、施工、設備の設置、運用・保守、モニタリング								
	災害時協力登録車制度の創設 計画・調査、設計、施工、設備の設置、運用・保守、モニタリング								
	EV、V2H充放電設備に係る補助制度の創設 計画・調査、設計、施工、設備の設置、運用・保守、モニタリング								
	災害時協力登録車制度の創設 計画・調査、設計、施工、設備の設置、運用・保守、モニタリング								
	EV、V2H充放電設備に係る補助制度の創設 計画・調査、設計、施工、設備の設置、運用・保守、モニタリング								

飯田市 脱炭素先行地域提案概要③

3. 脱炭素の取組に伴う地域課題の解決や住民の暮らしの質の向上等

■災害に対するレジリエンス機能強化による地域の魅力向上

- ・災害等に停電を防ぐ地域マイクログリッドエリアの構築により、安心安全な地区として魅力を高め、定住人口を増加させる。
- ・既存配電システムを活用した地域マイクログリッドは、自営線でのマイクログリッドと比較して、交通信号、水道ポンプや街灯、携帯電話基地局などの社会インフラに改めて接続する必要がないこと、エリア内の既設の太陽光発電設備の電気を融通して利用できることといった、より多くのメリットを地域住民にもたらすことで、安心安全な社会を提供できる。

■自治力の強化、定住人口・交流人口の増加

- ・地域産の再生可能エネルギー100%を活用する地域として、地域内外へ情報発信することで、環境意識の高い移住希望者に対し訴求し、定住人口や交流人口の増加が見込める。
- ・PPAコンソーシアムの構築により、工事の標準化や太陽光パネルの価格低減などのメリットが生じ、そのノウハウを基に市内他地域へも低価格な太陽光発電設備設置が可能となることで、他地域への展開が見込まれる。
- ・薪ストーブの導入やエシカル消費など地域が一丸となって取り組むことにより、様々な暮らしの工夫が生まれ、これを共有していくことで、地域の一体感の醸成と自治力の強化が進む。
- ・飯田版ZEHの建設や断熱改修により、省エネ効果のほか、寒暖差がない快適な住環境がもたらされることで、高齢者も健康的な生活を送ることができる。

■若年層の人口流出の抑制

- ・児童生徒が、母校がエネルギーの自立に先進的に取り組んでいることを体感することで、その価値を知って母校への誇りを持ち、地域に役立つ人材になろうとするきっかけとなる（飯田市が進める「地域人教育」の推進）。
- ・エネルギーをめぐる社会問題への興味関心を醸成することに加え、デマンドレスポンスの実践を通じた電気利用の工夫のあり方が定着することで、2050年までの脱炭素社会実現を担う中心的な人材を育成する。
- ・学校を中心とする脱炭素化の取組のモデル事業としての定着を図り、他地域での展開に寄与する。

4. 関係者との連携体制と合意形成状況等



■関係事業者

脱炭素先行地域に係る連携した事業実施について合意形成済み。

■対象地域

川路地区まちづくり委員会に説明を実施し、合意形成済み。

■小中学校

飯田市教育委員会との協議により、方向性について合意形成済み。

■庁内推進体制

「飯田市ゼロカーボンシティ推進本部」において取組の内容を共有。

5. 2030年度までに目指す地域脱炭素の姿

- ・地域環境権条例の支援の下に、市民が地域環境権を行使して地域公共再生可能エネルギー活用事業に取り組むことに対する支援を引き続き行い、固定価格買取制度を使用しない地域環境権条例の仕組みの構築など、更なる再生可能エネルギーの導入促進に取り組んでいく。
- ・飯田市の気候風土に合った建築物の省エネルギー化の制度構築により、この部門の削減を進めていく。加えて、リニア中央新幹線の駅周辺にモデル的な低炭素街区を創出することから市内全域への低炭素な住宅、区域の拡大を図っていく。
- ・環境に配慮したエネルギー供給を選択する地域内の需要家が増えることが期待されるほか、より排出係数の少ない電力の供給も期待できることから、その情報の提供等により、より環境負荷の少ないエネルギー使用を促進していく。
- ・デマンドレスポンス、バーチャルパワープラントなどの新たなエネルギー需給の仕組みについての検討及び確立を行い、エネルギー需給バランスの最適化を目指すスマートコミュニティを実現することによって、地域全体で目標に掲げた二酸化炭素の削減を達成する。

<アジェンダ>

- ◆ 飯田市の概要
- ◆ 環境文化都市
- ◆ 脱炭素先行地域事業
- ◆ うごくる。



うごくる。 (環境文化都市づくりプラットフォーム)



うごとステキな未来がくる
うごくる。

飯田市の目指す都市像「環境文化都市」実現を目指し
脱炭素・気候変動・SDGsなどに取り組む、
飯田市・南信州地域振興局・飯田信用金庫の三者で設立した
市民参加型の組織（プラットフォーム）。

学び

対話

行動

の3つを柱に、段階的に取り組むとともに
世代や立場を越えた新たな「つながり」を生みながら
「環境文化都市」の実現に向けて歩みを進めていく。



環境文化都市づくりプラットフォーム



うごくる。を ^{ハブ}HUB に広げる 取組の輪

脱炭素や**SDGs**はみんなの**共通テーマ**！

「誰か」ではなく、「**みんなで**」取り組んでいく必要がある！

持続可能な社会の実現には、
日々の生活・暮らしの見直しが必要。
地域活性化や課題解決にもつながる。

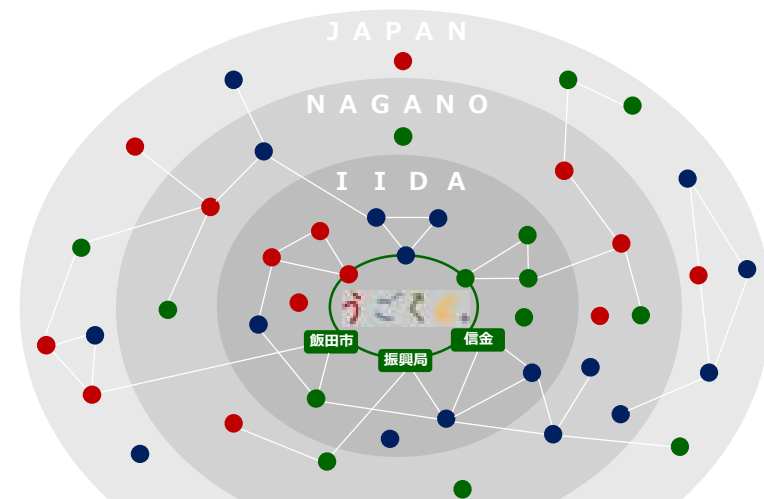
地域

2030年・2050年を担う世代。
探究学習等を通じ持続可能な社会の
実現へ向けた主体的取組が求められる。

若者

脱炭素経営やESG投融資など
事業活動における持続可能な社会への
貢献を求める声が強まっている。

事業者



世代や立場を越えた**つながり**で
飯田から「行動の連鎖」を生む！

学びの場：うごくるゼミナール。

学びと交流が生まれるキッカケ うごくるゼミナール。

「知ることが第一歩！」という考えのもと
脱炭素・気候変動・SDGsなどについての**学びの機会**を創出。
「参加体験型」であることが最大の特徴で、
知識を得るだけではなく、参加者同士の対話を通じ、
主体性や**協働**を重要性を体感する。

＜過去の参加者＞

小学生・中学生・高校生・大学生・大学の先生・YouTuber・インスタグラマー・
地域団体・企業・地域金融 など

参加者の感想
＜大学の先生＞



元気な高校生、地域づくりに熱心に取り組む市民の方、自主的に参加した企業や行政の職員、そして私のような大学教員が集まり、楽しくゲームに取り組みました。カードゲームでは、はじめは自分のことにばかりに気を取られてしまいましたが、次第に隣の人や全体の状況にも目を向けることの重要性に気づき、視野が広がっていく過程を楽しむことができました。

＼ R5年度は**カードゲーム**を中心に開催！ ／



うごくるゼミナール。

学び



4月29日（土）

with
南信州環境プラスチックスマート推進協議会

テーマ：海洋プラスチックごみ問題



7月22日（土）

with
結ジュニアリーダー（市内中学校の代表者）

テーマ：SDGs（持続可能な開発目標）



うごくるゼミナール。

学び



10月12日（木）

当地域の「事業所」の方向けに開催

テーマ：SDG s（持続可能な開発目標）



6月22日（木）

飯田市・南信州地域振興局・飯田信用金庫の
「合同職員研修」として、カードゲーム体験会を開催

テーマ：SDG s × 地方創生



うごくる〜む。

つながりと行動を生む未来のカタリバ うごくる〜む。

脱炭素・気候変動・SDGsなどについて
情報や課題感などの共有を通じて
何ができるかを考える誰でも参加OKな自由な対話の場。
毎回、答えや結果を求めるのではなくゆる〜いつながりの中か
イノベーションやコラボレーションを生み出す！



＜過去の参加者＞

高校生・専門学生・県外の大学生・学校の先生・地域おこし協力隊・企業・
地域金融機関・行政機関 など

大学の講義で「持続可能な社会の実現」について学ぶ機会が多いのですが、それに向けて何ができるのかと疑問を持ちながら参加しました。

飯田市が目指す環境文化都市を実現するには、自分のことばかりではなく、広い視点から世界を見ることが重要で、みんなで協力して取り組んでいく必要があると感じました。

参加者の感想
＜県内大学生＞



うごくる〜む。

学び

つながりと行動を生み出す未来のカタリバ

うごくる〜む。

出入り自由！ 申込み不要！ ゆるく開催！ 誰でも参加OK!

“いい日を元気にしたい！” “いいで何をやってみたい！”
この生まれ育った私たちのジモトの未来を考えることはステキなこと。
「うごくる〜む。」はそんな仲間が集う場所。気軽にみんなで考える場所。
いきなり結果は出ないかもしれないけど、行動に移してみる場所。
あなたも未来への第一歩を「うごくる〜む。」で踏み出してみませんか？

ゼロカーボン / 地域活性化 / これやってみよう！ / 地域課題解決 / SDGs

開催日

9月 3日 (日)	13:00~14:00 (まちかど芸術祭inりんご並木)
10月15日 (日)	13:00~14:00 (りんご並木天国)
11月 3日 (金祝)	13:00~14:00 (第15回飯田丘のまちフェスティバル)
12月 2日 (土)	13:00~14:00 (SYMS冬の大作戦)

場所
りんご並木のエコハウス 〒336-0244 長野県飯田市本町3丁目30

飯田市のまちを元気にする「地域文化村」の運営を担い、各地へ発信する「まち・内を元気にする」をテーマとした「うごくる」(地域文化祭典「うごくるフェスティバル」)です。地域を元気にする「うごくる」は、ゼロカーボン、SDGs、地域活性化、地域課題の解決に取り組む人々の集まる場所です。

うごくる。事務局(飯田ゼロカーボンシティ推進課内)
【電話】0265-22-4511(内線:5473) 【メール】sahugen_co2@city.fida.nagano.jp

りんご並木の歩行者天国 に合わせエコハウスで開催！

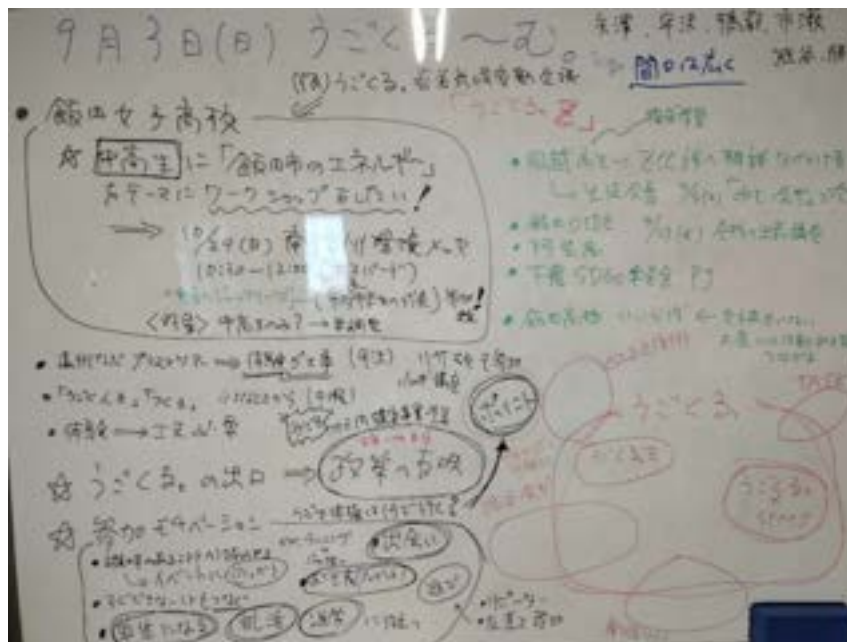


飯田市で開催されるイベントで 出張！うごくる〜む。開催！



うごくる〜む。

学び



環境やエネルギー問題をもっと
知ってほしい！



環境に優しい次世代モビリティを普
及させたい！



環境に配慮した行動に
ポイントを付けてみたら？



飯田市をZ世代×ゼロカーボンの拠点
にしたい！



うごく。令和5年度 取組事例（高校・専門学校）①



学び

下伊那農業高校



SDGsの視点で農業を考える講演会

下伊那農業高校SDGsプロジェクトチームを対象に講演会を開催。信州大学農学部コーディネーター・市内の農家さん・地域おこし協力隊がそれぞれ事例を交えながらSDGsを説明。

飯田OIDE長姫高校



気候変動と私たちにできること学習会

飯田OIDE長姫高校2学年の独自カリキュラム「環境とビジネス」内で、飯田市ゼロカーボンシティ推進課の学習会を実施（2年連続）。気候変動やゼロカーボンについて学ぶ。

学び

飯田女子高校



環境・エネルギーに関する特別講義

飯田女子高校で、環境・エネルギー問題に関心のある生徒が有志で集まり、放課後に特別講義を実施。その後、探究活動へとつながり、生徒の主体的な取組に展開。 (次頁につづく)

飯田コアカレッジ



2030SDGsカードゲーム体験会

飯田コアカレッジの探究授業の枠内で、SDGsカードゲーム体験会を開催。また後日、気候変動やゼロカーボンに関するワークショップを探究授業の枠内で実施。

うごくる。令和5年度 取組事例 (高校・専門学校) ③



対話

飯田風越高校



環境問題に関するインタビュー

飯田風越高校2年生が環境問題をテーマに探究活動を実施しており、生徒からの依頼で環境問題や市の取組について説明。また同テーマを探究する飯田女子高校の生徒と意見交換も実施。

飯田女子高校



うごくる～む。への参加

環境・エネルギーについて探究する飯田女子高校の生徒が「うごくる～む。」に参加。同世代と共に考えるワークショップの企画を持ち込み、開催に向け調整を開始。 (次頁につづく)

うごくる。令和5年度 取組事例 (高校・専門学校) ④



対話

飯田女子高校

「環境文化都市いいだの未来について一緒に考えよう」開催



10月29日（日）にエス・バードで開催された南信州環境メッセ2023内でワークショップを開催。市内各中学校の代表者や同テーマを探究する高校生から大人まで約30名が集まり、環境・エネルギーに関するディスカッションを行い、最後には「提言」として発表した。企画から司会進行まで、飯田女子高校の生徒が行った。（次頁につづく）

うごくる。令和5年度 取組事例（高校・専門学校）⑤



行動

飯田女子高校

ワークショップで生まれた「提言」を市長へ報告



前頁のワークショップで生まれた提言を生徒自ら飯田市長に報告。「市民参加型のイベントをひらこう！」、「give & takeの学びを！」、「アピール隊を発足！」の3つの提言を報告し、市長も前向きに応じた。当日は多くの報道陣が集まり、新聞やCATV等に取り上げられた。

ZCCバッグ・ポロシャツ製
作

太陽熱温水器補助金

ZCC推進本部

小水力発電支援

トランジション戦略

公共交通利用促進

うごくる～。

脱炭素先行地域事業

SDGs de 地方創生

木質バイオマス機器補助金

ムトス助成金（ゼロカーボン枠）

太陽光発電設備・蓄電システム補助金

環境学習

うごくる～む。

ツリークライミング講座

環境省認定制度「脱炭素アドバイザー」

徹底した省エネ

飯田版ZEH

EVシフト

出前授業

再生可能エネルギー創出・活用支援

産業技術大学講座

啓発ビデオクリップ作成

環境共生住宅エリア構築

全小中学校へのPV設置

移動手段の脱炭素化事業

EV急速充電器整備

積み木ワークショップ

エコライフ啓発

環境アドバイザー

GX

SNS発信

エコライフ啓発

南信州環境メッセ

うごくる。

EV補助金

水素

うごくるゼミナール。

脱炭素まちづくりカレッジ

新エネルギー研究

こどもエコ講座

エコハウスで飯田版ZEH宿泊体験

わが家の「うごくる。」コンテスト

ゼロカーボンを実現による「ステキな未来」のカタチ



ゼロカーボンを実現したときに誰が喜ぶか？ ▶

- | | |
|---------|--------|
| ○ 環境省 | × 地域 |
| ○ 地方自治体 | × 住民 |
| ○ 政治家 | × 地元企業 |
| ○ 販売事業者 | |

地方自治法

第一条の二 地方公共団体は、**住民の福祉の増進**を図ることを基本として、地域における行政を自主的かつ総合的に実施する役割を広く担うものとする。

ゼロカーボンにより、
ウェルビーイング（幸福であり続けること）
が実感できなければそもそも人、世の中は動かない。

「ゼロカーボンそもそも必要？」「ゼロカーボン必要です。ってそりゃわかるけど」・・・という人に

ゼロカーボン実現の価値を自然に届けることが必要

「ステキな未来」に向けて



ゼロカーボン実現をめざし、
みんなに「ステキな未来」がくるように

地域ぐるみで
うごくる。でつくる

まずは
楽しい「ゼロカーボン」

一緒にやろう！
〇〇×「ゼロカーボン」

えっ！そうなの
結果「ゼロカーボン」

「ステキな未来」に向けて

これが…

飯田焼肉



マトン (羊)

生後2年以上の羊肉。独特の風味と弾力ある歯ごたえが特徴。



カシラ (豚)

豚の頸部の肉。歯切れの良さと滑らかな舌触りが特徴。



黒モツ (牛)

牛の胃袋(ミノ)を下茹でしたもの。黒い突起は柔毛で、炙るとサクサクに。

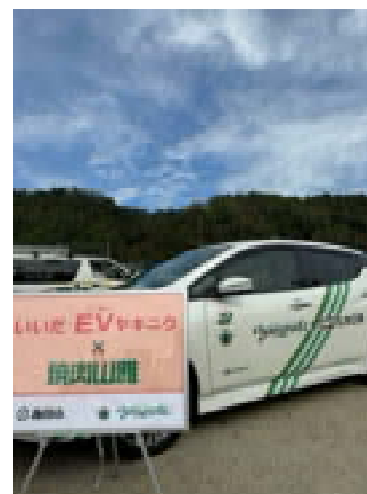


ゆでおだ (豚)

豚のおたぐり(腸)を柔らかくボイルしたもの。皮の弾力と脂の甘みが特徴。

MATSUMOTO Yamaga F.C.

コラボ企画



ホットプレートの電源供給はEVから



一目でわかるメッセージ！

うごくる。 取り組みの輪を広げよう

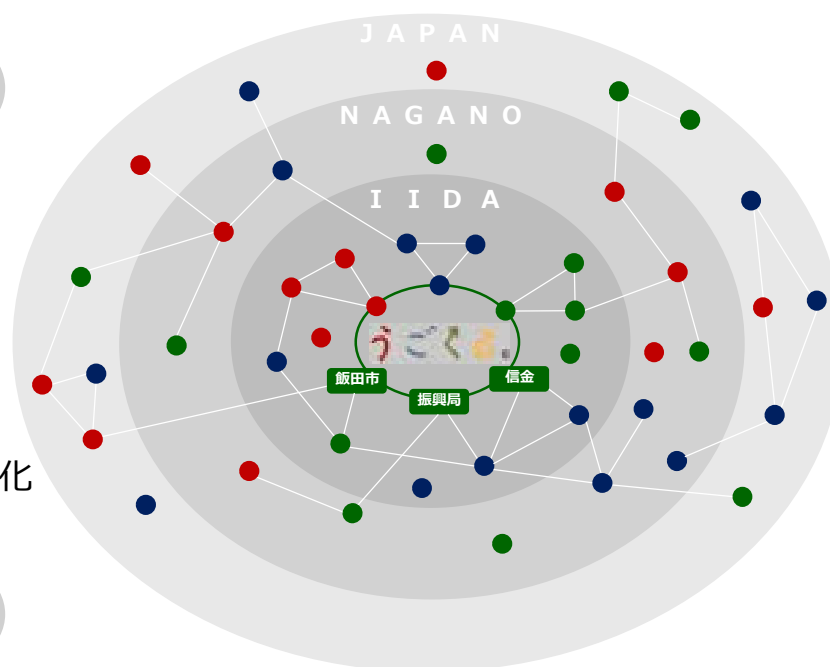
うごくる。は、「**地域**」、「**若者**」、「**事業者**」の取組を支援し、相互の協働の推進による連携を深めます。

うごくる。X

あらゆる主体 (x)
からの自律的取組の推進

主に若者、**若者 (z世代)**
をターゲットとした取組の強化

うごくる。Z



うごくる。W

飯田だけでなく、
幅広い**地域 (Wide)** 連携
による、うごくる。の機能強化

主に**事業者 (Business界)**
をターゲットとした取組の強化

うごくる。B



一緒に「うごくる。」しませんか？

「うごくる。」は、**環境文化都市実現**をともに目指す、
「学び」「対話」「行動」を支援します。

■環境学習出前講座

○座学

- ・ゼロカーボンシティいいだの取組全般
- ・脱炭素先行地域
- ・地域環境権条例
- ・うごくる。（環境文化都市づくりプラットフォーム）（ほか）

○カードゲームなど体験型学習プログラム

- ・脱炭素まちづくりカードゲーム
- ・SDGs de 地方創生カードゲーム
- ・積み木ワークショップ

■現場視察

- メガソーラーいいだ
- りんご並木のエコハウス（ほか）

■研究、探究、活動の支援

- 仲間集め
- 地域企業とのマッチング
- イベント等の共催
- 情報発信
- 活動資金に関する相談（ほか）



※その他、お気軽にお問合せください。

飯田市 市民協働環境部 ゼロカーボンシティ推進課

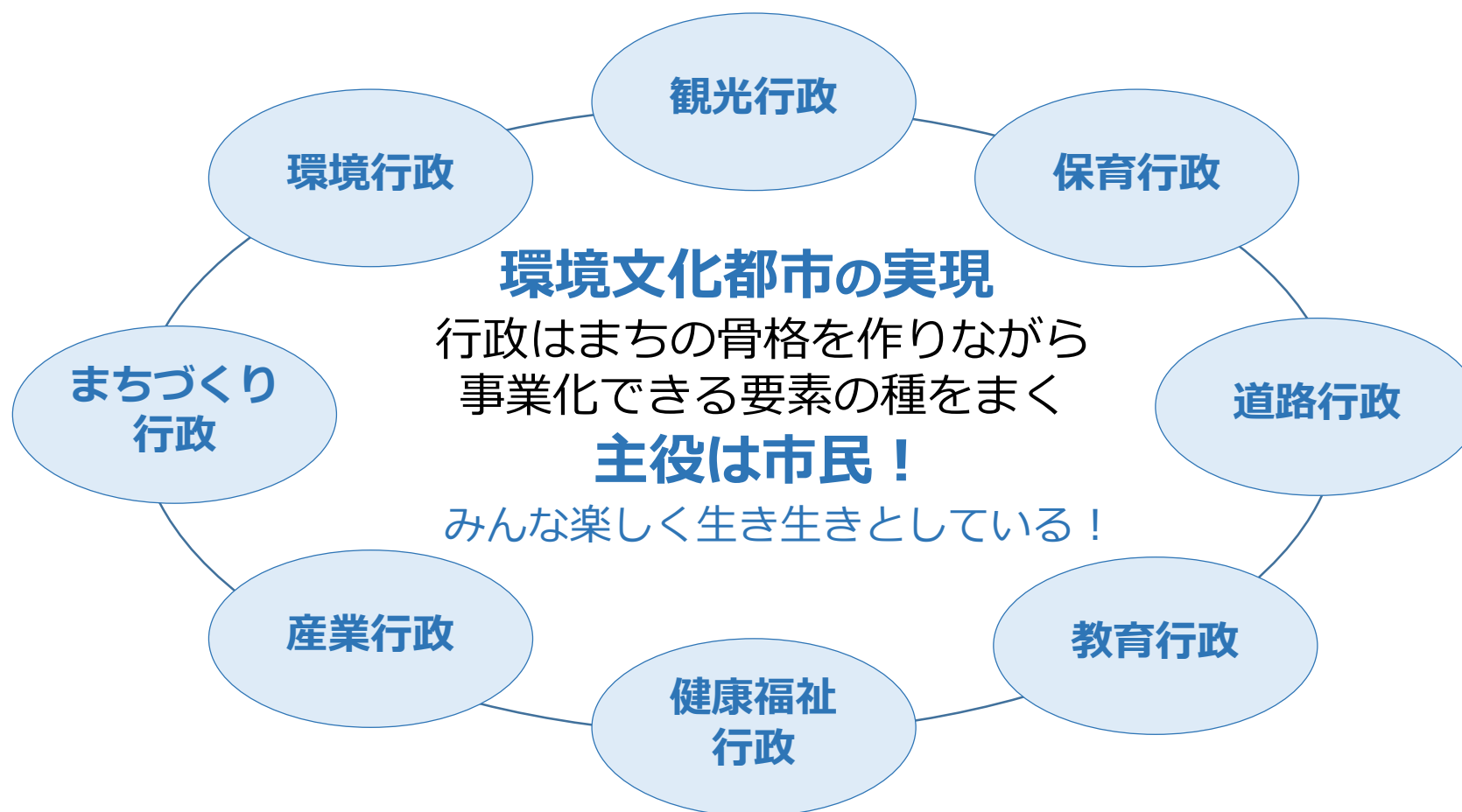
〒395-8501 飯田市大久保町2534

TEL 0265-22-4511 内線5471

E-mail sakugen_co2@city.iida.nagano.jp



みんなで目指す「環境文化都市」



この様子を見た人たちや事業所が
「飯田で生活してみたい」「飯田で事業をやりたい」と
思ってもらえるまで知恵を出し合っていく！

人口減少への歯止め・産業振興